

開業医、医師会理事としての キャリア

インタビュー:小森貴先生

7班 岩越鎮瑞 北村慶 佐野友南 竹内悠人 徳濱陸真 林力良 宮内玲緒 吉村蒼
社

プロフェッショナリズム(医学類2年)

インタビューの目的

以下のことを質問し、医師のプロフェッショナルとはどのようなものでどのように実施されるのかについて考える。

- 開業医としての心構えについて
- 医師会について
- 石川県医師会理事として行ったことについて
- 日本医師会常任理事として行ったことについて
- 医師のプロフェッションについて

小森先生の御略歴

| | |
|-------------|---|
| 昭和54年 | 金沢大学医学部医学科 卒業 |
| 昭和54年 | 金沢大学附属病院耳鼻咽喉科 勤務 セントビンセント・メディカルホスピタル |
| 昭和60年 | 石川県立中央病院耳鼻咽喉科医長 |
| 平成1年 | 小森耳鼻咽喉科医院開設 院長 |
| 平成18年～平成24年 | 石川県医師会長 |
| 平成24年～平成28年 | 日本医師会常任理事 |

開業医、コロナ対策について

- 開業医として
毎日何時でも患者さんを診るようにする。
→1日に300人ほど。夜中にも診てもらえるため
県外からもたくさんの患者さんが来ている。
- コロナ陽性の患者さんに対して
自宅療養が増え、保健所では対応しきれなくなっているため、電話番号を教え
て自分から電話するように言っている。本来は予算がつくものであるが、無料で
行っている。
→これらは患者さんのためであり、医師の誇り。医師は素敵な仕事である。

小森耳鼻咽喉科医院の写真



医師会の仕事

□ 目的

- 国へ医療制度改革等を訴えるなど先生が医師会の理事としてなされていたこと

□ 石川県医師会

- 医師の働く姿を県民に見てもらおう舞台を設ける
- メディバタ会議

活動: 医療従事者ではない一般の方々から医療機関や制度に対する疑問、要望事項を話し合ってもらう

達成: 医療を提供する立場からは気がつかなかったことを発見することができた。

- 遺族へ患者さんが亡くなった後に解剖の提案をすることの導入(全国初)
- 医療格差をなくす働きかけ

□ 日本医師会

- 7つのワクチンの定期接種化のための予算を通す運動
- 国の委員会、分科会

先生の考えるプロフェッショナルとは

- 医師は患者のためになることを医師同士の切磋琢磨を通じて追求すべき
 - 医療の質を向上させる義務
- 法律が間違っていると思うならば医師同士が団結し、法律を変えようとするべきである。それほどまでに患者を何よりも最優先することが大事。医師会はそのためにある。
 - 医療の質を向上させる責務
 - 患者の福利優先の原則
- 独りよがりにも正しさを求めるのはよくない。医師間、医療従事者間の協力が必須。
 - プロフェッショナル(専門職)の責任を果たす責務

学生に向けて

- 色々な事にチャレンジしてほしい
- 周りに冒険しようとしている人がいたらその人を支えてほしい
- 海外留学をしてほしい。海外の医療の良い点や日本の保険医療のすばらしさに気づくことができる



小森先生のお写真

考察

- 決して受け身にならない
- 能動的な学習態度
- 開業医ならではの信頼関係
- 最低限の業務を超える努力、社会貢献
- 患者からどう思われるかを常に考える
- 医学は患者様の協力のもとに成立(解剖、実習)
- 医者が患者に選択されているという自覚を持つ